

東海道五十三次を往く

第36回

43番目となる四日市宿と、44番目の石薬師宿。ミスモ編集部が現地を巡りました。



東海道を往還する人が通っていた三滝橋

広重の絵に描かれた貧弱な板橋は、四日市宿の入口にかかる三滝橋とされるのが定説だが、実は東海道から離れた場末の小さな橋を描いたものだったとの説もある。写真左は現在の三滝橋。



よっかいち 四日市宿

伊勢参宮道との分岐点として栄えた宿場町

歌川広重の絵にも描かれた、三滝川にかかる三滝橋を渡ると四日市宿に入る。すぐに左手に天文19(1550)年創業の老舗「なが餅笹井屋」がある。その先右手には問屋場跡の福生医院、黒川本陣跡の黒川農業商會が続く。さらに進むと小さな交差点に「すぐ江戸道」と書かれた大きな道標がある。東海道は国道1号線を渡り、諏訪神社の脇を通るが、ここからしばらくは「表参道スワマエ」のアーケード商店街になる。市街地を過ぎて近鉄名古屋線のガードを過ぎたあたりから、古い木造住宅などが散見され、街道の雰囲気を感じるようになる。道幅が狭い割には交通量が多いので歩く際は注意したい。このあたりは、東海道に寄り添うように軽便鉄道の四日市あすなろう鉄道がのどかに走っているの、移動に上手く使ってもよい。伊勢参宮道との分かれ道である「日永の追分」を過ぎ、しばらくすると杖衝坂が待っている。



諏訪神社

鎌倉時代初期の建仁2(1202)年に創建され、以来四日市の氏神様として深く信仰されてきた。

街道の食

四日市とんてき

分厚い豚肉をにんにくと濃い目のたれでステーキし、キャベツの千切りを添えた豚肉のステーキ。戦後間もない頃から四日市の市民に親しまれている。

あさひ食堂

三重県四日市市諏訪栄町 6-15
☎ 0593-52-7752



往時の趣きを残した道には、旧東海道を示すユニークなぼりが立つ。



四日市あすなろう鉄道

一般的な鉄道よりも線路の幅が狭く、規格が簡便な軽便鉄道(ナローゲージ)とよばれる鉄道で全国でも珍しい存在。四日市から終点の内部まではほぼ東海道に沿って敷設された。



東海道名残りの一本松

昔このあたりから泊の集落まで東海道の両側に低い土手が築かれ、その上に大きな松の木が植えられていたそうで、その名残りの松の木が一本そびえている。



表参道スワマエ

東海道は諏訪神社の前から「表参道スワマエ」のアーケード商店街となっている。



日永の一里塚

街道の土産

なが餅

創業天文19(1550)年。戦国武将・藤堂高虎が「武運のながき餅を食うは幸先よし」と大いに喜んだという。北海道産小豆の粒あんを厳選した国産もち米のお餅で包み両面を香ばしく焼き上げる。



なが餅笹井屋本店
三重県四日市市北町 5-13
☎ 059-351-8800



日永うちわ

300年の伝統がある日永うちわは、持ち手の部分が丸い竹をそのまま使った丸柄が特徴で、持ちやすく、頑丈で弾力性に富むうちわとして人気がある。

稲藤

三重県四日市市日永 4-4-48
☎ 059-345-1710



杖衝坂

日本武尊(ヤマトタケル)が剣を杖がわりにして登ったという故事から杖衝坂と名付けられた。東海道では箱根、鈴鹿峠に次ぐ難所のひとつとも言われ、芭蕉が馬で登ろうとしたが坂が急すぎて落馬したことを「歩行(かち)ならば、杖つき坂を落馬かな」と詠んだ句碑もある。



日永の追分

伊勢参宮道との分岐点で、右手に行くとは東海道、左手に行くとは伊勢参宮道に分かれる。緑地には大きな鳥居や道標、常夜灯などが立っている。



石薬師一の里塚

石薬師宿の西のはずれにある一里塚跡で、日本橋より百二里目にあたる。榎の木の下に石碑と常夜灯がある。



石薬師寺の静かな門前町。もともと四日市宿の次の宿場は亀山宿であったが、宿間の距離が長すぎるため、後に石薬師宿と庄野宿が新たに設けられた。石薬師宿は宿場としては新しく、東海道の宿の中でもっとも小さい宿場の一つだったそうだが、以前から石薬師寺の門前町としてにぎわっていたという。小さな宿場だったので史跡も少ないが、町の中心部にある小澤本陣跡と佐佐木信綱記念館は見ごたえがあり、その界限は東海道の名残りを感ずることができる。国道1号線を陸橋で渡ると安藤広重の絵にも描かれ、宿の名前にもなった石薬師寺がある。山門をくぐり、木々に覆われた本堂へ向かう参道を歩くと、なぜだか心が落ち着いてくる。石薬師寺を後に先に進み、蒲川橋を渡ると石薬師寺の一里塚跡がある。このあたりものどかな雰囲気があり、古の旅人に思いを馳せることができる。



小澤本陣跡

忠臣蔵で有名な浅野内匠頭や大岡越前守、徳川家光などの名前が載った宿帳が保存されている。



佐佐木信綱記念館

唱歌「夏は来ぬ」で知られた明治の歌人で国文学者でもある佐佐木信綱の生家と資料館がある。宿内にはあちこちに信綱の「歌カルタ」が掲げられている。



石薬師寺

726年創建の古刹で、鈴鹿の厄除け祈願の寺として親しまれている。



「写真でたどる、現代の東海道五十三次を往く」上巻(日本橋～袋井宿)好評発売中!



人気連載「東海道五十三次を往く」が待望の書籍化! 写真をより大きく使い、迫力や臨場感を増して、現代の東海道を紹介している。定価は1,650円(税込)。お求めは全国の書店、ネット通販などから。詳しくは4面で。

お求めはこちらからも!

